

# 六甲山の池沼におけるプランクトン

藤 下 英 也

昭和34年5月28日、神戸市北部にある六甲山観光センター付近の池沼におけるプランクトンを調査する機会を得た。この地域一帯は花崗岩からなり、海拔 約800m、ゴルフ場の西北に大小いくつもの池沼が散在している。これらの池沼のうち、あま池、ひょうたん池、および新池の3池沼のプランクトンを調べた。調査時は午前10時

から11時の間で、いずれの池沼も水温は18°C、またpHは7.4を示して弱アルカリ性であった。

## プランクトンの組成

これらの池沼におけるプランクトンの報告は未だ無いように思われる。プランクトンはすべて岸からネットを投げて採集した。その主な種類を表に示す。

	あま池	ひょうたん池	新池
Chlorophyceae (緑藻類)			
<i>Euastrum ansatum</i> var. <i>pyxidatum</i> .....	•	+	•
<i>Xanthidium antilopaeum</i> .....	•	+	•
<i>Staurastrum lunatum</i> .....	•	•	+
<i>Spirogyra</i> sp. ....	•	•	+
Chrysophyceae (黄藻類)			
<i>Dinobryon divergens</i> .....	•	+	+
<i>Dinobryon bavaricum</i> .....	•	•	+
Bacillariophyceae (珪藻類)			
<i>Melosira italica</i> .....	+	+	•
<i>Fragilaria</i> sp. ....	•	+	•
<i>Tabellaria fenestrata</i> .....	•	•	+
Cladocera (枝角類)			
<i>Bosmina longirostris</i> .....	+	•	+
<i>Bosminopsis deitersi</i> .....	•	+	+
Copepoda (橈脚類)			
<i>Cyclops</i> sp. ....	+	+	•
Rotifera (輪虫類)			
<i>Keratella cochlearis</i> .....	•	•	+
<i>Polyarthra trigla</i> .....	•	+	+

ns, *Dinobryon bavaricum* や、緑藻類の *Euastrum ansatum*, *Xanthidium antilopaeum*, *Staurastrum lunatum* などの鼓藻類は、いずれも溶存する栄養塩類が少ない水中に出現するようである。今回の調査では、これらの植物性プランクトンが大部分を占めていること、および全般的に出現個体数が極めて少ないことから、六甲山における池沼は、一般の山地湖沼にみられるのと同じように、貧栄養状態を示していると考えられる。

しかし、一般に富栄養湖沼の指標とされている *Bosmina longirostris* が、極めて少数で

あま池では、甲殻類の *Bosmina longirostris*, *Cyclops* sp., および珪藻類の *Melosira italica* が極めて少数個体みられた。

ひょうたん池では、輪虫類の *Polyarthra trigla* と、珪藻類の *Melosira italica* がやや多く、その他、甲殻類の *Bosminopsis deitersi*, *Cyclops* sp., 黄藻類の *Dinobryon divergens*, 緑藻類の *Euastrum ansatum*, *Xanthidium antilopaeum*, および珪藻類の *Melosira italica*, *Fragilaria* sp. などが若干みられた。

新池での優占種は、黄藻類の *Dinobryon divergens* でその他、甲殻類の *Bosmina longirostris*, *Bosminopsis deitersi*, 輪虫類の *Keratella cochlearis*, *Polyarthra trigla*, 緑藻類の *Staurastrum lunatum*, *Spirogyra* sp., 珪藻類の *Tabellaria fenestrata* などがみられた。

## 考 察

プランクトンの種類と、その生活環境である湖水の化学的性質との関係については、過去幾多の研究がなされている。これらによれば、黄藻類の *Dinobryon diverge-*

はあるが出現していることは、この池沼附近が観光センターとして近年いちじるしく開発せられ、また夏季にはキャンプ場として使用されていることから、汚水の流入などによって、しだいに富栄養化されつつあるものと思われる。

今後、これらの池沼の観測資料や観察記録を累積して、貧栄養状態から富栄養化への遷移の過程を解明したいと考える。

なお、本稿を御校閲たまわつた大阪学芸大学の水野寿彦助教授に厚く謝意を表する。

## 参 考 文 献

- 上野 益三 (1960) 淡水生物学 北隆館  
 水野 寿彦 (1959) 山形市西郊大沼池沼群の水質とプランクトン 陸水学雑誌、20巻、4号